

部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
防災・防犯部会				
4	福祉避難所等の防災学習会および訓練等を実施した数が4施設ということだが、どのような学習会や訓練なのか、何を見れば確認できるのか。 実際に何をするのかということが分かれば今後の参考になる。	福祉避難所へ移送する場合に地域の災害対策本部が直接福祉避難所へ連絡するのではなく、区の災害対策本部に連絡いただき、区の災害対策本部が受け入れ可能かどうかの確認をし、その結果を地域の災害対策本部に伝えるという通信訓練を行った。どの福祉避難所が参加しどのような訓練を行ったかの訓練概要は、区のホームページに掲載していきます。	同左	協働まちづくり推進課
5	実際に災害が起こった時に、地域の皆さんがどう動くかをしたいのかを考えていく必要があり、そのような情報を開示をしてほしい。	訓練内容については地域には周知しているところであるが、防災訓練の実施概要について、区のホームページに掲載していきます。	同左	
6	防災リーダーの平均年齢はどれぐらいか。災害時、エレベーターが使えない時に高齢者では階段の上り下りがきつい。区内の交通が遮断された際に、港区の特性として公共岸壁があるので船舶への避難も想定される。その誘導や補助も高齢者ではきついのでユースを期待している。	港区は61歳、大阪市全体では64.5歳。ご指摘のとおり現在の地域防災リーダーの年齢層は高めの傾向です。本部会で、防災リーダーの層、特に若手の層を増やす取組が必要でないか、地域の防災訓練に学生にも参加してもらう工夫をしてはどうかとのご意見をいただいていたので、30歳以下のユース防災リーダーの集まりをつくるため、現在、広報みなと7月号に記事を掲載し、募集をしているところです。	同左	
7	個別避難計画について、避難行動要支援者となる対象者はどのように決めているのか。また、福祉専門職と連携とあるが、どういう事業所を想定しているのか。	対象者はこれまでの見守り名簿と同じ対象者。連携事業者は区役所とネットワークのある施設連絡会などの参加事業者である。	同左	
8	区民まつりや天保山まつりで防災をテーマにしてみてもどうか。大阪で初めて実施した中央突堤での空飛ぶ車の実験も災害時にヘリの代わりになる。いろいろなところで防災を啓発してはどうか。	あらゆる機会を通して啓発したい。区民まつりはプロポーザルのため、提案内容によるが、以前区民まつりでも防災をテーマにしたこともあるので、今後も検討していきたい。	同左	
9	個別避難計画はどれぐらいの期間を目途に策定していく予定なのか。最近、町内会で少しづつ避難訓練を進め始めているが。	災害対策基本法が昨年改正され、それから概ね5年なのであと残り約4年ということになる。一部地域で実施中の見守りマッピングを基盤として、具体的な支援者や避難場所を決めて、計画として整備することで作成できると考えている。今年度中にモデル地域で計画を作成し、順次、取組みを広げ全地域で個別避難計画を作成していきます。	同左	